

後記

小此木政夫先生は、本年三月末日をもって本塾法学部を退職される。先生は昭和四六（一九七一）年から四〇年間にわたって、本塾の現代韓国朝鮮研究を興し、それを発展させることに尽力されてきた。小此木先生の研究者としての歩みは、本塾のみならず戦後日本の現代韓国朝鮮研究の発展と軌を一にしている。北朝鮮共産主義の研究に始まり、朝鮮戦争への米国の介入過程、韓国の政治外交、日韓・日朝関係など、小此木先生はつねに開拓者として新しい研究分野を切り拓いてきた。地域研究と国際政治学が見事に融合した先生の研究アプローチは、慶應の現代韓国朝鮮研究の最大の特徴であり、また強みとなって後学へと受け継がれている。

こうした先生の功績を称えるとともに尊敬の意を表すべく、本論文集は法学部専任教員と他大学の研究者からのご寄稿により記念号として編集された。ご寄稿いただいた方々は、いずれも小此木先生の学恩に感謝するため、ご多忙にもかかわらず喜んで筆を執ってくださいました。ここに御礼を申し上げます。

本号の執筆者の多くは小此木先生のご指導のもとで研究者の道に入っており、私自身も学部頃から先生の教えを

受けてきた。当時の小此木政夫研究会は、膨大な入ゼミ課題にもかかわらず志願者も多く最難関ゼミのひとつであった。なんとかゼミに入った後も、課題本やレポートに追われていたが、小此木ゼミ生であることが大変誇らしかったことを今でも鮮明に覚えている。

大学院には国内外を問わず小此木先生を慕う学生が集まり、先生の薫陶を受けた者は現在、塾内や他大学そして海外で研究者として活躍している。執筆者一同、本論文集により小此木先生から頂戴した学恩に少しでも報いることができれば望外の幸せである。

本記念号の刊行にあたり、法学研究編集委員会および慶應義塾大学出版会編集部の方々からご支援いただいた。特に出版会編集部の乗みどりさんには多大なご尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

ご退職の後も、小此木先生には慶應義塾の現代韓国朝鮮研究のさらなる発展を温かく見守り、また時には叱咤激励していただければ幸いです。最後に、小此木先生の今後ますますのご活躍とご健康を心より祈念しながら、本論文集を謹呈したい。

平成二二年一二月

法学部准教授 西野純也